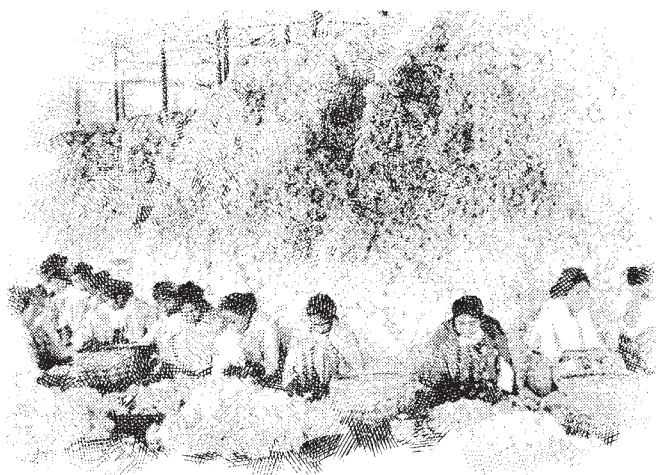
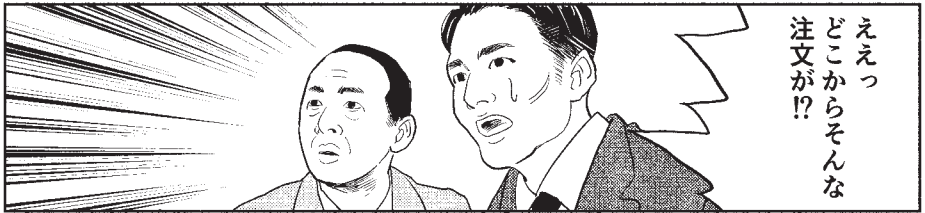


# 第5章

日本綿花

ナポレオン喜多社長の誕生





しかし日清紡は明治四〇（一九〇七）年に設立されたばかりの会社。大戦後の混乱で相当大変なはずでは……

宮島さんは世界を飛び回った喜多さんや、村田由蔵さんと親しくされていらっしゃるんだよ。大変な時にお二方が手を差し伸べようとしているということだな

村田さんは日本の綿花では最高権威の一人といわれている方ですよ

宮島さんはこれまた決断力のあるお方で、重役会でそんな大量の買付けできる商社などあるはずもないと反対された際には「日本綿花の喜多さんの内諾を得ている。責任を自分で取る」と皆を説得したそうだ

とするとこれはやっぱり……

その後、綿花相場はみるみる上昇した

喜多さんこの度は本当にありがとうございます

いえない価格が上がるかどうかではないです。大戦で英国から全世界への輸出が細るそうになると日本にチャンスが訪れる。そのチャンスを逃さないために助言しただけです

それにしてもよい部下をお持ちですね。村田由蔵さんを私に預けていただけませんか？

ほう狙いは中国ですか。御社名の「日清」は日本と清国の交易による繁栄を願ってのもの。いずれ日本の紡績会社が中国に紡績工場を作る時代がきますよ

その時に彼がきっと役に立つでしょう

喜多はこのように  
日本に大量の注文が  
舞い込んでくることを予想し  
紡績各社から大量の綿花の  
注文を得ていた

ホンマにそないに  
調達できるんか？

任せてください  
日本綿花の幹部に  
地球の裏側まで買いに  
行かせます  
そして綿製品を  
世界中に売ります

大戦中に  
大英帝国の市場を  
ことごとく  
奪いましょう

大正六(一九一七年)  
第一次世界大戦の影響で  
ニューヨーク綿花市場は  
南北戦争以来の高値を  
記録した

もつと綿花の  
調達網を広げる  
このタイミングを逃すな  
日本が世界一の紡績大国に  
の上がるには今しかない！  
インドから東、  
そして西へもや！

喜多社長っ  
ビルマ(現・ミャンマー)から  
綿花調達に日本で初めて  
成功しました！  
ラングーン(現・ヤンゴン)  
に出張所を設立します！

次は  
インドの西からの報告です  
コンゴ、ソマリランド、  
スーダン、エチオピアなど  
東アフリカに社員を派遣し  
綿花の調達も開始しました！

よしっ今こそ  
日本綿花の開拓者精神を  
みせつけるんや！  
綿花の調達だけやない  
ついで綿布も販売  
するんや

おーっ！

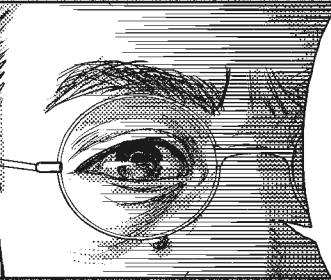
武藤山治は「紡績大合同論」を唱え合併を進め紡績王と呼ばれていた

喜多又蔵……この機を逃さず世界の綿花界を動かそうとしておる……

喜多は武藤山治からも信頼を得ていた

鐘淵紡績支配人 武藤山治

あの男、まるでナポレオンじゃ



第二次大戦中の大正三〇(一九一四)年、渋沢栄一が中心となって設立した大阪紡績と三重紡績が合併し、東洋紡が誕生

日本綿花の発起人が出資し経営に関与した日本紡績・摂津紡績・尼崎紡績が合流し、大正七(一九二八)年には大日本紡績(現・ユニチカ)となる

こうして東洋紡績、大日本紡績、鐘淵紡績からなる「三大紡績体制」が作られる

これら三社は日本の工業生産額の上位を占め日本の紡績業界を牽引していく



大正六（一九一七）年  
喜多又蔵は弱冠四〇歳にして  
社長に就任した



二五年前の創立当時  
日本の貿易額は  
二億円に達しました  
これなら  
貿易を目的にした  
会社を作っても  
やっていけるだろう  
との考えで日本棉花を  
設立しました

ただ今や  
日本棉花一社だけで  
楽に二億円を貿易する  
ようになりました

そしてこの年は  
日本棉花創立  
二五周年でもあった



創立二五周年にあたり  
これを記念して

普通配当二割、特別配当二割、  
記念配当六割の一〇割配当を  
実施いたします！

えっ？

一〇割配当  
だって？！

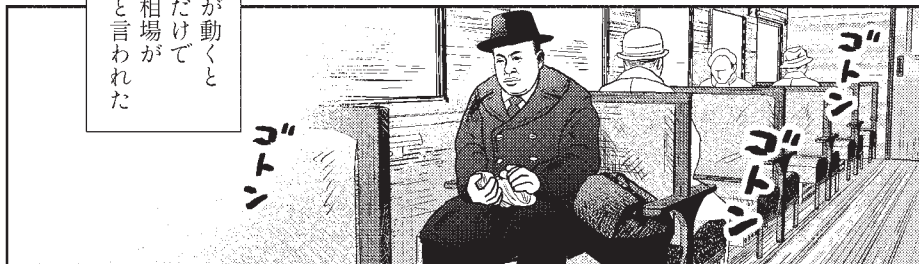






喜多又蔵が  
上京する？  
これは  
日綿筋だぞ！

喜多が動く  
それだけで  
糸相場が  
動くと言われた



ゴトシ

ゴトシ

ゴトシ



わしらもいざ  
人造絹糸を取り扱いたい  
……いやできれば  
製造したいもんや



そういえば  
鈴木商店の金子さんが  
入れているらしい



このち  
日本綿花は  
人絹を巡って  
鈴木商店と対決  
することになる